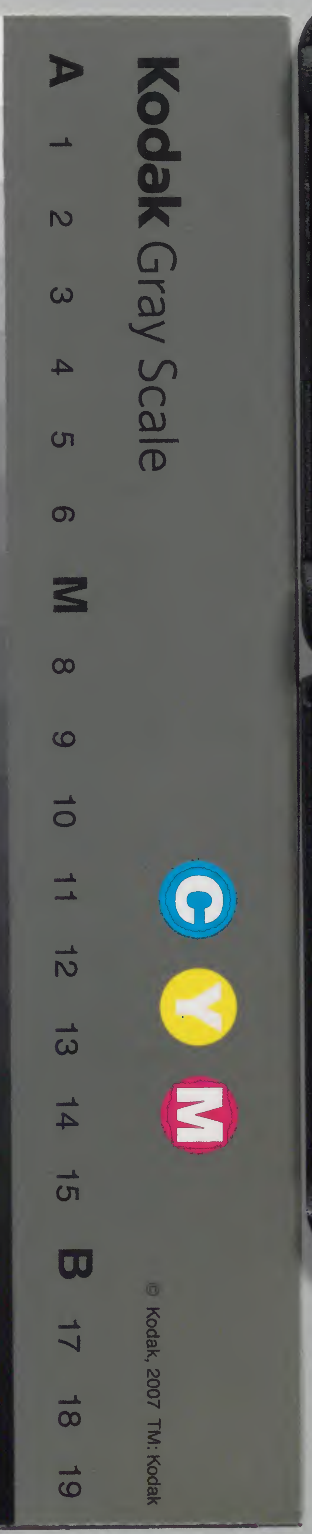


伊勢奉宮名所圖會

和書門		二九二七	一〇	八
類	號	函	架	冊

和書		二九二七	一〇	八
類	號	冊	架	函

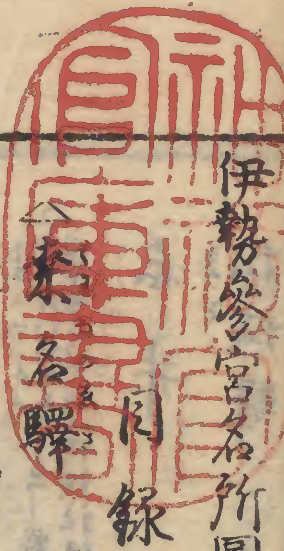
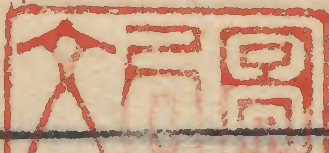
内閣文庫		
番號	和	29127
冊數	8 ( 3 )	
函號	172	319



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



文教部  
庶務課



伊勢參宮名所圖會卷之三

内一〇二〇七號

東國より参宮の御道より別して津の江戸橋へ出され  
其暇活素名を附りて安んぶ也

- △江場有王丸塚
- △式部清水
- △天武天皇御宮
- △井尻神社
- △三重川
- △高岡川
- △矢橋
- △白子
- △同三崎大明神
- △佐野神社
- △太夫村
- △矢田河原
- △星川
- △富田
- △淡田
- △天澤山龍光寺
- △長志
- △津嶋渡
- △白子観音
- △栗生神社
- △上野村
- △中臣神社
- △尾野神社
- △七里渡
- △町屋川
- △朝明川
- △西富田三光寺
- △龍室山妙見寺
- △素名渡口
- △金井
- △小向
- △神野山浄土寺
- △鳥出
- △日市
- △諏訪神社
- △四豆山観音寺
- △金井林光寺
- △玉垣
- △三日月市
- △三日月市
- △三日月市



△本後 押田。被長  
△夜手山  
△酒舟神社  
△根上り松

△江戶橋。美石  
△塔世橋 塔世門  
△國府阿弥陀

津 安法津  
△愛宕權現  
△惠目山観音の石

△大泉山宮宮寺  
△安濃松原 安濃津田  
△岩田村 岩田松

△岩田山園明寺  
△洞麿堂  
△八幡宮 岩田松

△浩見山部法庫  
△志布見神社  
△矢野

△四生合社  
△志津浦△雲津橋  
△垂水 日成松寺

△上野 茶屋  
△雲津川  
△小野古江渡

△小野 徳貫  
△中道。小津  
△六好茶屋。渡川

△曾原 右藏  
△阿坂神社 阿坂社  
△着方片榎宮舊跡

△阿坂神社 阿坂社  
△白米城跡  
△東明山景德寺

△忘井  
△久米。塚本。松江  
△利隴山薬師寺

△松坂驛  
△愛宕山龍泉寺  
△光明山遍照寺  
△少名彦名祠

△梅松山菅相寺  
△先福山朝回寺  
△長田祠  
△川島△清水 法久寺

△七見 日神社  
△意悲神社  
△下樋小川 下樋小

△榊田川  
△祓部 榊殿  
△魚見社  
△大國玉神社

△保津 天香山  
△祓麻樓 榊殿  
△再拜橋  
△齋宮村

△齋宮舊蹟 日成松  
△再拜橋  
△同繪馬。大佛  
△苑園 御溝池

△北島屋敷跡  
△勝田△和屋 翁塚  
△藤原  
△御堂山△溪村

△根倉 日神社  
△大渡 大渡松 御溝池  
△村松岸  
△宇田 大の内神社

△有尔 有尔神社  
△湯田野 日神社  
△上野  
△明星 安養寺

△明野原  
△無合橋  
△小窪橋  
△小俣 日神社

△板田橋  
△離宮院 日神社  
△未曾瀨



出陣の儀



桑名渡





同天武天皇御社

三徳神



羅山文集  
曾聞二帝此停車  
憶在吾邦未見書  
今開先蹤人不識  
誰廣風土補方輿







富田とみだ 焼蛤やきかき

蛤かき

やうやう

啼なげや

郭かく云ぐも

其角

日名物まぐれ蛤



其國より海道の別道津の江戸橋へ出

▲素名驛 城あり文禄年中一柳右京大夫築く不也人好一々余

輕富商多く繁昌の漢あり去産多し又向い勢品長崎より一

傳して昔侍者氏領地あり 此所の北三里にして本曾川のうぎの上勢及漢の境

其地又一同連社としてあり其地其法渡の地して天目一箇命之神諭あり

▲素名神社 式内之祭不天御命 信之三奇明神とて是なり

素名市中より往て東山の方あり○社傳曰く景行天皇の御宇天武天皇

大友の皇子をとりて皇居りしとき此地に御幸ありて本園へ入浴りしと伝へ

▲中臣神社 式内春日大明神とて 此所は依見院正應年中八月十八日

毎年七月十七日祭祀 儀はひやうりといふなり 又八月十八日祭祀

ありて第七十七日を試樂といふ公より社於御寄附領主も尊敬を

て當所第一の神社あり 中臣の神社也春日大明神 ○袖野山浄土寺 素名の

あり 浄土宗本尊阿弥陀如来 ○江場有王九塚 由來詳 ○佐野神社

瀧室山妙見寺 素名の記光丁計あり 素名の城皇素名少将祈願所にて心伏寺

○七里渡 旧名間遠の渡といふ天武天皇尾州勢田遷幸の時此渡海長

きありて間遠と伝ありて是渡を結兼路といふなり

古き 此渡は舟勢尾張の境本曾川の落合此より月ありき時尾は佐谷へ

里渡しは佐谷より陸地へ神あり鳥森を名く 徳田へ出ると佐谷の上半里は海ア那津



四日市 諏訪大明神の社





ひさが せんまけ  
日永追分

長明渡海記

ゆきまが  
新佐ぬ

いさ へ  
いさ 渡

むら

ま

よらん

あさけ  
新州

まが  
まが

ひまが  
日永

あつた

くら



まが せんまけ  
代神楽の者名の  
近村をま村かぬ  
野を代かぐらうまの  
庚甲の代かぐらうまの  
離たの月物たるべ  
放下とぬとゆ其た  
をまら





勝頼圍牛久天皇... 勝頼相治 素よのまひて東の方より多る小舟勢や尾張の海面をゆく浪のいと白くうをて

いしくくをゆるれききに浦へくくもゆる浪く郡 業平

▲素名御船場 海上より船の目高焼常夜燈番の暇あり

▲天武天皇頓宮 素名の町より北西斗西南天田村より信八岐の社より人の羅山紀の白首漢元

▲矢田河原 今ハ矢田町といふ 天仁十二年十月豊臣秀吉 御田信雄と相睦るし不かり

▲城山 矢田一郎左衛門尉龜之丞保十一多織田右府信長公これに謝

代と ○三女乳 此より多き一く後んで

▲町屋川 橋のよサ百六十石は不より西面よをこのふ

▲繩生 小向のつぎねちる 昔々令然の驛とより ○金井 溝村と云 即令終 ○修

務遙拜所といひら神戸の路かよりと云

▲小向 松寺の ○井尻の神社 今神明といふ 祭社 素名島尊式内之元

右城の路あり是を材の城といふ 沼本三河入る宗喜 播磨一を弘治三年に依主

所名 ○星川 船寺のつく細き流きをいふ ○安渡寺 本尊観音

天津星川激且影のう流る夜安の口よりとありの哉

▲星川 松寺の ○星川神社 所祭織姫の神式内あり

▲朝明山 素名とい日市の間たよるあり ○船明川 海道よ

子の福ぬる朝寺のふりま風り霞をまけて花を教ふる 定家

▲西富田三光寺 藤田相摸守墓あり 文治三年一院御領にて府田

も其所の守護人かよりと云 ○立坂神社 式内祭神若守 賀喜命

かより此社の境内より流る川を米苗川と云

▲富田 日市か 名産焼蛤 ○名出神社 富田村の内右 式内之不祭鳥

▲鳴海 神とい但社傳とお遠あり

▲日市 渡田のつぎ 宿駅あり人並五六百軒海陸便よく繁昌の地

▲毎月六日 市あり日市より神あり号く此湊二町程遠渡あり



渡海御免に素名と曰ふ

○諏訪神社 祭不建御名方命八坂刀賣命之 其地と江  
尾田と云此社も赤坂家の重宝田原及秀竹の田あり

○三重川 日市の町石橋あり 俗に三三三川と云ふ  
吾等三重川系のはとろいれいせうりかもとつてむく桂も 伊保唐

濱田 日市より 二里あり

日永 泊村のつき進より一里 名産園扇 ○田島川 ○長田川 ○

かえけ川 ○落合川 ○鉄亀川 ○加太支川 皆橋あり日永町の中方より  
此川上壘ありて平家の御後槍の三郎若菜五郎等えええ多儀倉より流きまきと

四足八鳥山観音寺 日市へ去りぬるあり 後花園院勅願山良  
忠上人 傳云神武天皇東征の時軍利ありて太神宮神依りて八咫鳥をほりハ

と云陸路見とふもこのゆかりに八咫鳥の上り本なるて勢路あり又此を  
御大和森と云

昭日とららまると日永なる洲橋に名ありり乃一村 西行

退分 分と約の勢あり 大鳥居あり △是より勢の津との  
高岡川 飯橋あり泉川関川の流にて大河之此上流を加太川と云

名寺 せんのひさのまたりはしりまより甲斐川約の和泉野の寺

○天沢山龍光寺 神戸の後花園院勅願所北島大納言満雅公建立と云

神戸 一里あり昔中神戸に不の百姓あり居 神戸神厨の地名も大社

飯野社 神戸の高嶽の宮と云 祭神飯豊姫命 神戸人具盛の村市也

○金井林光寺 神戸の町の後之 聖武天皇勅願所なる千々千眼観

世音福壽院亦号地藏坊法言宗之

矢橋 神戸の町 石標あり 右橋也 ○鎌倉權五郎景政塚 田中の

○長古此浦津の後のと云右渡之 昔は尾石津の渡あり一が甚難所

あり縁よりはしまれ渡りて中へ渡りてむけてとやうと云

舟人のつゝまのりう渡たると見らうと云やこれ世のうん 中務卿と云

万葉集 二野連入彦の命 春日部首老

未

未

未

未

未

未



あまのえんさん  
白子観音寺  
希ふんえんさん  
不断桜







江戸橋



津

江戸  
橋



○若松（作）海濱郡島之湊之天平十二年十月聖武天皇倭務園坊幸の府  
 一里許之松原見渡せば汝千のうきまの鳴まうた  
 御製

○三田市 野西の如來寺延在帝勅額ありて三尊佛を子像あり

○玉垣 古名 彌都加伎神社式内にて祭社土壇社

○白子 本名寺村自らの俗稱也 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り

○白子 破山のてきま里あり 南の奄藝郡より小川を限り



一社ハ春日八幡の社ありと云

孫尼布里社ハ式内ニ在リテ保食社ト云フ

大塚の宮寺を宝幢院と云

津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈

禱あり○本郷村○裨田村○杖永村○紙智村○横地村○衣子

本郷村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

本郷にて裨田をくわが杖永や紙智と云く村あり

杖永ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

衣子の酒井川と云く小川の上にある

衣子ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

○酒井神社酒井川の祭神秦酒公之此石郡山村と云

秦酒公ハ秦の將也

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

根上村所おともいふ昔いひ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり根上村あり

根上村ハ津の領主の所祈願所毎多ク三月十二日御祈禱あり

塔世山四天王寺又護國殿と云

塔世川の曹洞流ハ一七本尊大日如来左右

阿弥陀釈迦及に天王眞護の古堂鎮三社其外佛像後○中書藥

阿弥陀釈迦及に天王眞護の古堂鎮三社其外佛像後○中書藥

師加来師加来ハ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり師加来あり

師加来ハ不世遠の跡儀ハ老松の大木あり師加来あり

四天王寺達立の勅を下し終入就中此寺と帝都ハをきをみて諸國

四天王寺達立の勅を下し終入就中此寺と帝都ハをきをみて諸國

に先達て建し心此より早く停止とありて化れんとす其後

に先達て建し心此より早く停止とありて化れんとす其後

加藤景道足を中真と三月とあり又四條院天福三年觀山快然東

加藤景道足を中真と三月とあり又四條院天福三年觀山快然東

遊して黄金の誕生佛を得て帰る當寺匠王殿及安岳と耐且

遊して黄金の誕生佛を得て帰る當寺匠王殿及安岳と耐且

寺主傳りてさうふよりて快然一菴を繕ひて居住せしむ

寺主傳りてさうふよりて快然一菴を繕ひて居住せしむ

錫をたけして小城又煮り永平寺道元禪師の繼りてあり

錫をたけして小城又煮り永平寺道元禪師の繼りてあり

此寺禪宗といふなり

此寺禪宗といふなり

其後文祿三年甲午正月七日鐵田信長公の母公此寺にて逝

其後文祿三年甲午正月七日鐵田信長公の母公此寺にて逝

去りて信長生霊の後裔と総々信包天正十一年より津の

去りて信長生霊の後裔と総々信包天正十一年より津の

塔世橋 塔世川 塔世村

塔世橋 塔世川 塔世村









御寺二月朔日御  
 えて後堂内ニ櫻  
 を散り調ふ御  
 儀の若衆と御  
 掛瓜を以て救十人  
 軒前院の花瓜を以て  
 先驅とて思沙門一  
 人丈掛瓜を以て  
 立出る鬼も具足とて  
 奇を拵今を人々  
 後祖と掲げ本堂  
 に入るこれ又付添者



國の府の阿の弥の陀  
 惠日山  
 観音寺  
 祭  
 鬼おの祭

後まゝのひておの  
 持をかりし物とて  
 二つありて鬼の  
 巻にまゝとて掛瓜  
 前ありこれを  
 遣ふ者救十人  
 白刃とてつて  
 け鬼と切んを  
 かゝるる堂  
 外三面ありて止  
 具足は後堂へ  
 入の遠御あり  
 とひ侍人



阿漕の芝依の  
意を寫し尚  
阿漕の系



阿漕浦

あこぎが  
いんぎ  
あこぎが  
うし  
て  
度  
るん  
を  
ち  
を  
後照念院  
關貞政大臣





津 七十二町と云工高杉をたぐり繁花富饒の地也。つを津と云は右松尾海濱の湊にてありおろし向名安濃の津と云つと云く津

と云つひるすひるはたうべし 昔修勢津彦の供奉の神は饒雄彦と云

武天皇十代の後亂出羽守平正衛の三男安濃津三郎平貞衛より平氏朝の位居て此後

明後三年八月七日月七多六月十一日又安濃の大地震は安濃津十八丁焼滅すれども今

の地へ移る其後文録の云々今安濃津へ細路九郎左衛門尉義敦城を築きて後より天正

十一年より徳田上総公信包城とあり坂石垣を構へたり又天正十八年安田城を築き長

ある城下を築きたるなり 附言 亞將源親房卿 洞津考と云るものもこの津の物語にしてを洞津と云へり

との文より其理を成すなり 此津の名より旧くは橋或の文にあり代々の和歌も多しき修勢守經が記に

洞津と云其書やまのりかんの國の人のけされる付は修勢又洞津ありきやと云ふ

あの中へろのやうに安濃とて作り是も國の國帳して民のつとまはしりしは

の塚とのまきせぬ今も其の跡も平家のむらう此國はひそまりたる付は八幡

の宮としていひるも後て今あの傍にありて中より此中より安濃の跡ありて

かたり又たその跡として礎の跡ありのりかんの傍にありて此の跡ありて

楠の跡とぞいひるき其の跡ありて安濃の氏社ふたなりしは今もこの跡

風の音をえ終ぬこの三社をあの傍宮と云ふなりて安濃の跡ありて

の愚按 洞津の訓ハアナ津なり洞津を穴と云ふ例あり

坂土佛多清記云 伊勢國安濃津にありて作りしは中略 此津のいづれなり

て浦邊ありて往來の舟人の月瀬敷 瀬泊の曉の捲りきこえりて浪の音の

ひびく作りしは中略

風をむきいそやの捲きとえくよそある浪ぬき袖を

愛宕山 標の小西 此を愛宕権現と云出城の子の力強まるとて修勢入

惣社之延喜式神名帳より比佐知神社とあり是也 白子にも同様の神

惠日山親音寺 本尊如意輪觀音石像 縁起曰元明天皇和

洞二年乙酉二月二日安濃津の浦より渙夷の網より出て出現す

奇瑞叡聞に達し勅みよみて伽藍造立ありしに慶長四年六月

に焼亡し其後造立きて真言の僧方奄美郡窪田村の内蓬葉

山六丈院をくに移さる 今の安濃院と云幸坊也 都合今七院ありて伽藍の地は向の

松原の邊りありしと云又安濃の洞厨も云何所傳か浦洞厨の邊りありし

寺なり其名跡もあや。洞厨のゆい脱はたかおと。 毎季おれを

鬼押への神ゆと云其式

二月初日未の修心會の法よりゆるるは安番の氏子と云

エイくくと云て駈入る諸人も共々群集し同音はエエ







雲出川

雲づ川

あぶらぎ

うらまの

細橋

竿

かみ

はら

旅人

栄雅



三度大坂をわたり... 又牛王頂裁の儀ありて... 聖徳太子三番あり... 又供る物の節の子... 又牛王頂裁の儀ありて... 聖徳太子三番あり... 又供る物の節の子...

園府の阿弥陀

園府の阿弥陀... 園府に在りて... 園府の命なりて... 園府の命なりて... 園府の命なりて...

十六女の像... 什物たる... 子画佛六幅... 堂宇焼く... 堂宇焼く...

阿古木社... 阿古木と云ふ者... 阿古木と云ふ者... 阿古木と云ふ者...

所名

安濃松原... 此邊の邊に... 明應七年の地震に... 波は沈り其...



西の法師垂水成徳寺へ  
参りて多ふ小童儀の本よ  
りこのけりておれをいそぐ

さう児と

いれよう  
まゝ  
おみ  
のがら

とらひたる小童

大の中

法師

まを

とけり西の  
法師のちいと  
まをぬ



おの海のと海との間みありしと也  
諸のいねおの海へも大船を  
同敷基よ色ききるといふ

いせの海あけ松原まのともつひ一日教ふるといふ  
為家

安濃湊田 田後との湊田のつとめおぬもいぬありたり  
長明

安濃河原 神凡やいほとねといひのほ原は御つたり  
尊俊

又あの板橋のおあとも説くたれが暗きともい回地未詳

岩田橋 南よの架 湊の町あり板満と此橋の下とあるよ入山西北の橋の西側  
に當城の岩田口と云ふ附あり

あさはけお田お松もあつておがはははやあの板橋  
隆法師

岩田村 南東の村 舊いお様にてお神宮の御機織るるをと個おとかに号く

北畠材親卿の記より云ふ  
按るよお様を

阿右本浦 今津の浦下岩田橋より異ふ  
○阿右本塚 往來の阿漕町より海の方海邊

阿漕明神云 安の津をぬくちてきき浦をさうりおとたはるの畑お海をさうりた乃

阿漕記云 安の津をぬくちてきき浦をさうりおとたはるの畑お海をさうりた乃

阿漕記云 安の津をぬくちてきき浦をさうりおとたはるの畑お海をさうりた乃

所名

川名 所名











所名

文保六年百首

雲津川せれ入るまける苗代は秋の産こそ兼て刀之丸

俊頼

所名

此川勢南勢山の鐘之小畠園日勢南を流めし... 永福十二年信長将勢を討んとす

所名

小野右江渡 小野の流と云指不末詳 未清記云 雲出川のこま酒をまのこ小野右江渡と

所名

心野橋の右江は架りたる瓜之足と沖後の橋とも

所名

須川 雲出川の左傍に 肥田留 月本 須川の之 此本大和街道のふとらる

所名

曾原 曾原村より一里津より三里なる早合村の 右城趾 村の世よりありわ畠の畠屋天守御中

所名

三渡濱 曾原村の左の渡今いれらるる川流の海とさし一町の産をさし一渡つていりて波の引一時

所名

中道 此石のりわりの道の邊のありわ松崎と云

所名

六彩茶屋 又三渡村とも云修賢 渡川の多し神屋と云るもの右よりん中阿坂とのりわ

所名

阿坂山 一名神屋 山法山浄眼寺 阿坂の社 畠をこを小阿坂と云

所名

阿射野神社三座 嬉野 阿坂の社 畠をこを小阿坂と云

所名

白米城趾 小畠満雅卿意永三身と築く于時足利義満よりこれと改てのりわを左切御下

所名

辰方片樋宮舊跡 阿坂の東 東明山景德寺 小阿坂村と云はは

所名

志井 街を右へ入方より標石の影に園源内の書之條より小社あり

所名

久米 按るよ此右路に二里むり西郡村と云ふなりあり新女宮の跡之後此村来一お即りさるる

所名

利籠山薬師寺延命院 右あり 信よ船江の薬師と云ふ安地を安と真

所名

阿坂山 一名神屋 山法山浄眼寺 阿坂の社 畠をこを小阿坂と云

所名

阿射野神社三座 嬉野 阿坂の社 畠をこを小阿坂と云

所名

白米城趾 小畠満雅卿意永三身と築く于時足利義満よりこれと改てのりわを左切御下

所名

辰方片樋宮舊跡 阿坂の東 東明山景德寺 小阿坂村と云はは

所名

志井 街を右へ入方より標石の影に園源内の書之條より小社あり

所名

久米 按るよ此右路に二里むり西郡村と云ふなりあり新女宮の跡之後此村来一お即りさるる

所名

利籠山薬師寺延命院 右あり 信よ船江の薬師と云ふ安地を安と真



三渡川 今川

長明傳勢記又三三三  
とふふなり渡干ぬきは  
あるこれ碇よりかたこの  
さへ人けりぬるふふ子  
ぬきは松碇とふふ碇  
まより志厚満ぬま  
うらまはえま  
で尚遠く先ぐり  
市場とふふ碇  
うら碇子ま  
ふ其のうの三三  
ふま三三三  
うら

三三三の  
碇とけり人道



大坂ぬり

新三門志厚の

かきき  
三三三

月

三渡川を後世の名  
昔此より海中にて  
ありし其碇の波の  
退く向をこそ姓来





機園的

修習法の一戯物  
うてはくわま  
昔之原は怪多  
人かの難喉癢  
はやく風痰う  
妻室あり夕夜か  
夜はく其女を  
とれが鬼一ひ喰  
付もたまに乳を  
又怖と其疾奉ハ  
とて都の方の  
是の事とらん人  
少くは備料  
修習中不  
てはしつら  
なる事  
こそはれ



忘井

天仁元年  
群勢の付忘井  
らん不そ

王くま  
まやこれ  
この  
き

いと  
忘井の  
あ

青官甲斐





松坂大橋  
まつざかおほなせ



酒莊の橋より見る水の上  
日郡下仁持村並糸井村の  
より出く石井村をさへて  
橋師平尾村の舟山へ流る  
海へ入る





愛宕山 あだつみ

龍泉寺 りゅうせんじ

愛宕権現 あだつみごんげん











意悲神社 松坂より聖光町下村あり 垂仁天皇廿一年癸丑十二月廿八日飯神高の宮

と後しては奉養其(向)路 飯高飯神時代 今是を神鏡宮と神主の神

飯の宮云々 按るよき悲の藩を奉養其(向)路の藩に於て今は飯高飯神の御名も蒲田蒲田の御

下樋小川 右の宮の東より小川あり是を 首脊内親王其外勅使等の大非宮の境

此川は櫻して是より冷の事代止む 冷の事代は若狭の御名 下樋小川橋

首脊内親王其外勅使等の大非宮の境 此川は櫻して是より冷の事代止む

五智如来堂 飯高飯神時代 御田川の事代あり

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

大櫛神社 此二社の事代あり 大櫛神社と大櫛神社と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と

櫛田川 此二社の事代あり 櫛田川と櫛田川と









稲置川 舊名竹川  
 昔勅使を遣ふに舟を  
 後を修るとる武蔵の  
 遊境の後とて下樋小川  
 の後ハを境とせし

〇三冊往東  
 刺りて是と後々の  
 森とす

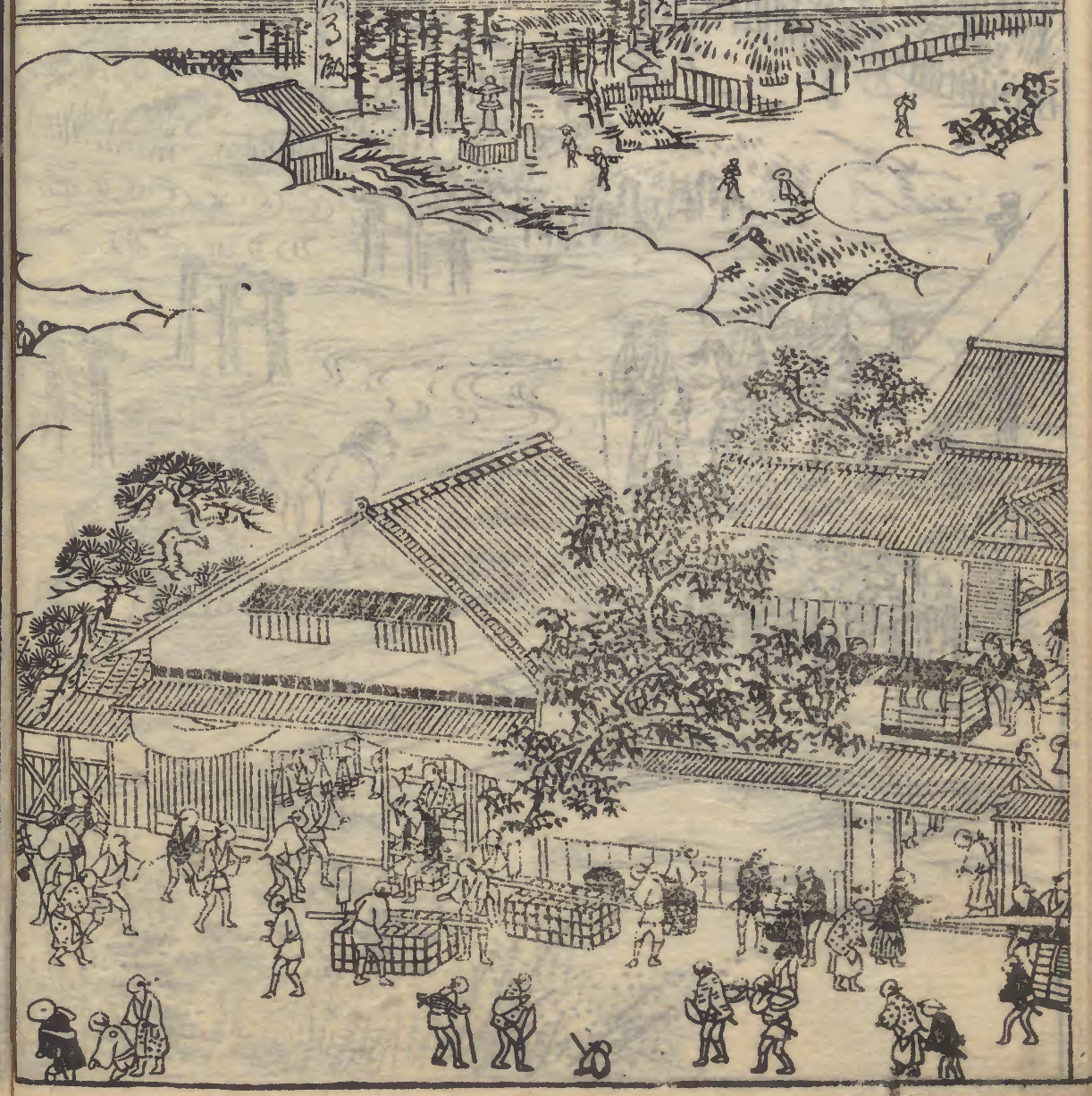




齋宮村  
 創幣使休  
 和泉屋

齋宮旧跡  
 俗に女宮の表

築  
 東清記云 齋宮月  
 録にぬいづの築  
 地の既と共りて芝  
 本の宮きやあり  
 なる居の標はりた  
 う屋よよこれるを  
 人たもかくとま



世とはふふ一本  
 とのこそそそい  
 日今本のもろ海  
 又植うりき内よ天  
 の社あれどもそ  
 はりし女宮の  
 ぶれし俗よと  
 野宮とつハ  
 湯りなり





大國玉神社 去御祖神社 六根村の御祖を制と 保津 六根の ○天香山社 おまのやまの

多氣川 一名梅本川 又後川 今の程来より北より古道あり昔より勅使とよき

迎へたり後と傳へたるの式あり是は後戸の森と云ふもあり今ハ宮川にて其式終る每言群紗の射も花巻の後あり

後川 西溪田村を系村のより 竹代より さきもか 後竹川の代々を承れそか

竹川の橋のほらちうの花園は我をはゆるせ免る

二拜橋 幸こ 後川の後橋 今も是のよりの地名あり 勅使多向の時多香川よかけ

今此橋の跡は 今も是のよりの地名あり 今此橋の跡は 今も是のよりの地名あり 今此橋の跡は 今も是のよりの地名あり

齋宮村 今別名 昔齋宮あり 今齋宮の本村又敏王の宮とて

齋宮齋王 別後 一方の森を 両長官より 制れを 又是を 齋宮又竹の宮

一方の森を 両長官より 制れを 又是を 齋宮又竹の宮

常盤 竹の都の 竹の宮 竹の都の 竹の宮 竹の都の

皇女 都を 出させ 其の 皇女 内 皇女 内 皇女 内

齋宮 渡 垂仁天皇 二十六年 治の御 八十 老老 七十



伊勢物語は男いせの  
 國狩の住よつてかお  
 秋宮よせりつれが  
 帝の位かればをくも  
 やとよん女の福やをくあり  
 くれが男はんとあひく  
 ねで作りよりよ女は月の  
 なつふ少きよそはさ  
 くまてあひたりま  
 もかつりを降さぬ  
 て女のこよりの  
 君やに我やゆえ  
 君やに我やゆえ











明星

明星の茶屋

をうごけり

又着らじ

あつて

浅全











所名

▲大渡濱 俗名貞 ○大渡松 大渡の濱あり昔倭姫命皇孫の神輿を盛に方と

大渡の沖後歳にありぬらん神さひひつた破の姫まの 兼隆

此松延家多中大風と倒すと其以の沖代官其跡よ今の松と極て自二首の姿をそへり

歳子経て朽に 松と大渡の恨とて帰る波は向もや

若くは継ぐもあつる大渡の松れまも毎ハ八子代をそへ

▲大与掬神社 祭神豊玉彦神云云式内之 ○駒除池 同治の御王沖後の

▲村松岸 大渡の東の村ありて沖遷幸の地あり

所名

▲大与掬神社 祭神豊玉彦神云云式内之 ○駒除池 同治の御王沖後の

所名

▲大与掬神社 祭神豊玉彦神云云式内之 ○駒除池 同治の御王沖後の

所名

▲大与掬神社 祭神豊玉彦神云云式内之 ○駒除池 同治の御王沖後の

▲宇回 天海回水大乃自神社 祭神豊玉姫命

▲有介 田丸より 一里あり ○有介神社 不祭天徳日命土師氏の祖神と有介村

にて両宮は毎年三千八百八十の出巻と仰て貢と是とお祭遊と云とて此迄と有介と云

小侯離宮院舊址



中臣氏社 春日明神

内外沖産遊所



小俣

是よりちよ田丸村あり  
村中田丸禪正大彌の靈祠  
田丸城 虎藏堂康基寺  
西の山手は波糸屋家宅  
相可入相可上社  
富向山田宮寺  
麻矢野津山の本多社の  
伊藤神社 伊藤村あり  
伊藤寺 伊藤村あり  
飯高 高宮 比余  
名區多々あり  
此の界と



高宮

高宮  
高宮の山あり  
高宮の山あり  
高宮の山あり



小俣社











